日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〒102-8251 東京都千代田区五番町12-5（日本大学通信教育部3号館）

入学に関する問い合わせ先：日本大学通信教育部入学課

［TEL］03-5275-8933 ［FAX］03-5275-8877 ［E-mail］gssc.jimu@nihon-u.ac.jp

https://atlantic2.gssc.nihon-u.ac.jp

受付時間：10:00～18:00（月~金） 9:00～13:00（土）

いつでも，どこでも

社会人に優しい大学院

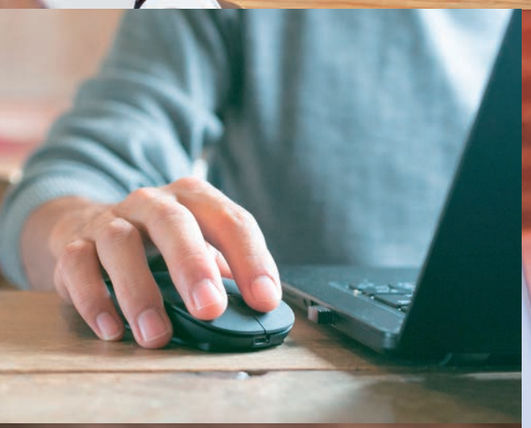
日本大学 大学院 総合社会情報研究科

〈通信制大学院〉

2020

博士後期課程
（3年制）

総合社会情報専攻



いつでも，どこでも
社会人に優しい大学院

実社会における自分自身のグレードアップのために学ぼうとしている方に自己実現の場を提供。年齢・場所などの制約を越え，多彩な学修方法を利用して勉学の意欲を持ち続ける社会人の方に「いつでも，どこでも」学べる環境を整え，日本大学は皆さんの入学をお待ちしています。

創設20年で修了生1,266名の実績。
「日本大学」が選ばれる
7つのポイント

1 働きながら学べる「在宅学修」がベース
教材を読みリポートを提出する「在宅学修」が学びの基本。
空き時間をコントロールして学べます。

2 「オンライン」でも「対面」でも。学生の都合に応じた個別指導を実施
困ったことをそのままにして欲しくないから，「直接話したい」
「メールで解決したい」など都合に応じて教員への相談手段を選べます。

3 学生一人ひとりの生活スタイルを指導教員が把握し，配慮して対応
「徹底した個別指導」が強みの日本大学。
いつでも，どこでも学生のニーズに応じて指導を行います。

4 スクーリングの必修は3日間のみ
在学中に必要なスクーリングの受講は1回，3日間のみ。
（博士前期課程・7月の3連休で実施）

5 アクセス便利な都心のキャンパス
キャンパスは，東京・市ヶ谷。
予約を取って，直接指導が受けられます。

6 どこでも参加OK！30人同時参加が可能な「サイバーゼミ」で充実した学び
オンライン上でゼミ生が集まる「サイバーゼミ」。
情報交換，研究指導は，通信制でも盛んです。

7 学生同志のつながりが深まる。ゼミ合宿（希望者のみ）なども実施
通信制大学院とはいえ，
ゼミ合宿などで，直接交流を深められる機会もあります。

Contents

「日本大学」が選ばれる７つのポイント 2
３つの分野 3
学位［博士（総合社会文化）］取得までのスケジュール 4
［専攻・教員紹介］
国際情報分野 特別研究指導教員紹介 5
文化情報分野 特別研究指導教員紹介 10
人間科学分野 特別研究指導教員紹介 14

3つの分野

国際情報分野

本分野では，国際人としての知識・学問を身につけるため，幅広い科目が配置されています。この分野は包括的なテーマが多いと考えられ，グローバル化・情報化の進展とともに，マルチディシプリナリーな見地からの検討が必要であるため他分野とも関連づけて研究します。研究内容には国際経営（経営・産業），国際経済（経済・金融），国際地域研究（政治・外交・国際関係）があります。

文化情報分野

本分野では，社会と文化に関わる情報を的確に読み解き，好ましいグローバル・コミュニティの形成とグローバル市民の育成に寄与できる研究者，教育者，専門家を養成します。研究領域は，比較文学，翻訳論，言語教育学（日本語教育他），第二言語習得論，文化人類学（東アジア）等であるが，いずれの領域であっても，学際的，超域的研究が推奨されます。学生と教員は多元的社会と多種多様な文化の理解を深め，文化の翻訳者として，また文化情報の受信・発信者としての能力を高めるべく，協働して研究に取り組みます。

人間科学分野

本分野では，人間存在の根本問題への理解と認識を推進することを教育研究の主眼としています。人間存在そのものが置かれている現代的な問題状況に関する学問的探究を学際的な立場から深化・発展させるように研究領域を大別し，人間存在と人間本性の根本的把握という課題に照準して科目配置を行っています。研究内容には，心理学，医療・健康，教育及び哲学・宗教があります。

開講科目

分野	授業科目	単位数
国際情報分野	国際情報論特殊研究	4
	危機管理論特殊研究	4
	現代政治学特殊研究	4
	国際法特殊研究	4
	国際政治論特殊研究	4
	日本政治史論特殊研究	4
	現代中国政治論特殊研究	4
	開発政策論特殊研究	4
	日中比較社会論特殊研究	4
	国際経済政策論特殊研究	4
	国際経営論特殊研究	4
	流通経営論特殊研究	4
	近代日本社会変動論特殊研究	4
文化情報分野	比較文学特殊研究	4
	翻訳論特殊研究	4
	日本文化特殊研究	4
	東アジア文化特殊研究	4
	英語圏文化特殊研究	4
	言語教育学特殊研究	4
	言語学特殊研究	4
	異文化間コミュニケーション論特殊研究	4
	第二言語習得論特殊研究	4
人間科学分野	社会哲学特殊研究	4
	宗教哲学特殊研究	4
	生命倫理特殊研究	4
	近現代哲学特殊研究	4
	社会思想史特殊研究	4
	比較心理学特殊研究	4
	産業・組織心理学特殊研究	4
	行動分析学特殊研究	4
	教育学特殊研究	4
	教育認識論特殊研究	4
	健康科学特殊研究	4
	特別研究指導	
	学位論文	

※都合により，担当教員が変更になる場合があります。御了承ください。

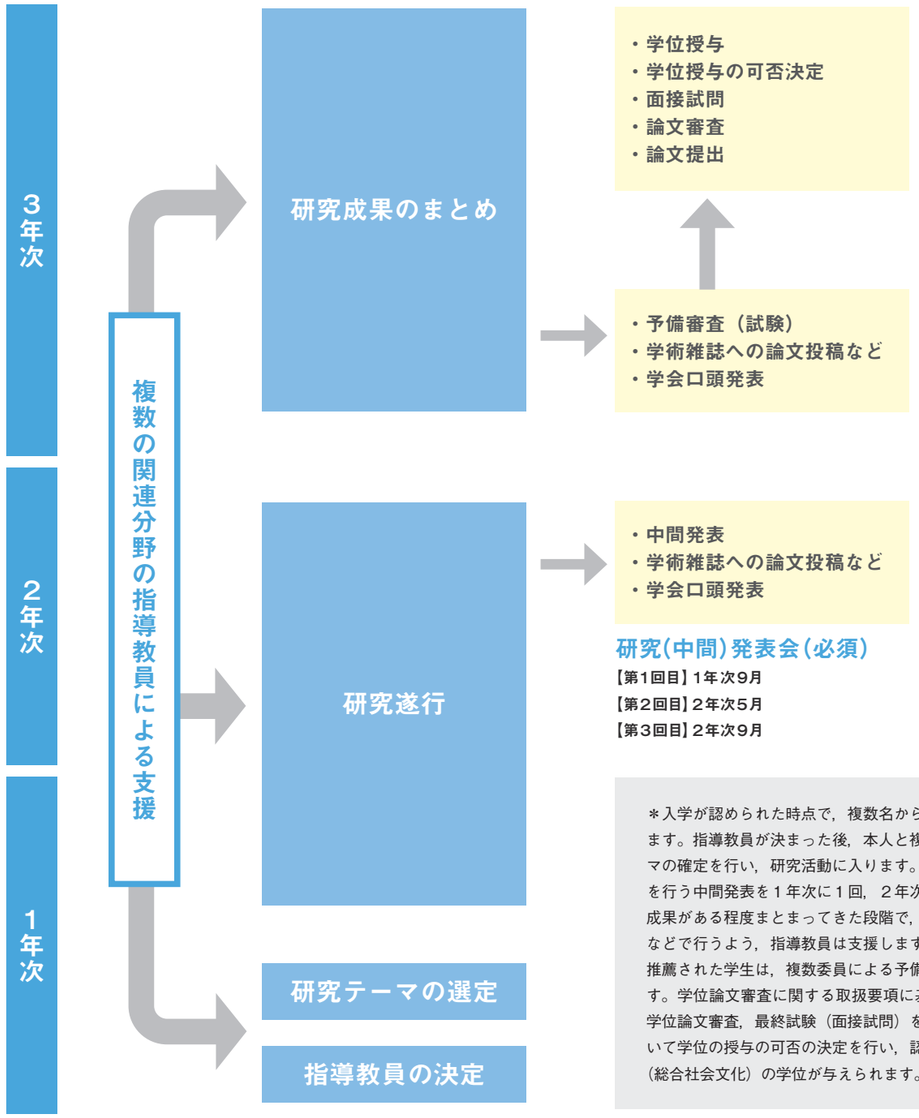
学位[博士(総合社会文化)]取得までのスケジュール

履修方法

専門分野を含めて12単位（３科目）以上を修得し，特別研究指導を受ける。

修了要件

３年以上在学し，必要な単位数の修得と特別研究指導を受け，博士論文の審査及び最終試験に合格すると，博士の学位（博士（総合社会文化））が与えられる。



＊入学が認められた時点で，複数名からなる指導教員を決定します。指導教員が決まった後，本人と複数指導教員で研究テーマの確定を行い，研究活動に入ります。研究の進捗状況の報告を行う中間発表を１年次に１回，２年次に２回行います。研究成果がある程度まとまってきた段階で，研究成果の発表を学会などで行うよう，指導教員は支援します。３年次４月末までに推薦された学生は，複数委員による予備審査（試験）を行います。学位論文審査に関する取扱要項に基づき，学位論文提出，学位論文審査，最終試験（面接試問）を経て，分科委員会において学位の授与の可否の決定を行い，認められた場合は，博士（総合社会文化）の学位が与えられます。

安藤 貴世 教授
Ando, Takayo

主な学歴

1999年　東京大学教養学部教養学科国際関係論分科卒業
2001年　東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻修士課程修了　修士（学術）
2009年　東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程単位取得満期退学
2014年　博士（国際関係）学位取得（日本大学）

主な職歴

2006年　外務省アジア大洋州局北東アジア課任期付き職員
2009年　日本大学国際関係学部助教
2013年　日本大学国際関係学部准教授
2013年　日本大学大学院国際関係研究科准教授
2016年　日本大学危機管理学部教授
2017年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2013年「人間の安全保障と国際法－紛争後の和解からの一考察」松尾秀哉・臼井陽一郎編，『紛争と和解の政治学』ナカニシヤ出版，2013年「国際社会における日本の位置づけをどう読むのか」佐渡友哲・信夫隆司編『国際関係論』弘文堂，2016年「日本は難民鎖国？－難民の権利と難民認定制度」森川幸一・森肇志・岩月直樹・藤澤巌・北村朋史編『国際法で世界がわかる』岩波書店，2019年「麻薬新条約における『引き渡すか訴追するか』原則－テロリズム防止関連条約における同原則と比較して」岩沢雄司・森川幸一・森肇志・西村弓編『国際法のダイナミズム－小寺彰先生追悼論文集』有斐閣

学術論文

2007年「普遍的管轄権の法的構造－1949年ジュネーヴ諸条約の『重大な違反行為』規定をめぐって－」『国際関係論研究』第26号，2010年「海賊行為に対する普遍的管轄権－その理論的根拠に関する学説整理を中心に－」『国際関係研究』第30巻２号，２０１０年“Prospects and Challenges of an East Asian Regional Security Framework: Veto Players and Winsets”（共著）『国際関係研究』第31巻１号，2010年「日韓国交正常化交渉における竹島問題－『紛争の解決に関する交換公文』の成立をめぐって－」『政経研究』第47巻第３号，2011年「国際テロリズムに対する法的規制の構造－“aut dedere aut judicare”原則の解釈をめぐる学説整理を中心に－」『国際関係研究』第31巻２号，2011年「テロリズム防止関連条約における『引き渡すか訴追するか』原則の成立－『航空機の不法奪取の防止に関するハーグ条約』の管轄権規定の起草過程をめぐって－」『国際関係研究』第32巻１号，2012年「『国家代表等に対する犯罪防止処罰条約』における裁判管轄権規定－絶対的普遍的管轄権の設定をめぐる起草過程の検討（1）」『国際関係研究』第33巻１号，2013年「『国家代表等に対する犯罪防止処罰条約』における裁判管轄権規定－絶対的普遍的管轄権の設定をめぐる起草過程の検討（２・完）」『国際関係研究』第33巻２号，2013年「人質条約における裁判管轄権規定－被害者国籍国と被強要国の管轄権の設定をめぐる起草過程の検討－」『国際関係学部研究年報』第34集，2015年「国際刑事裁判所とテロリズム－国際刑事裁判所規程の起草過程におけるテロリズムの扱い－」『国際関係研究』第35巻２号，2015年「国際刑事裁判所の対象犯罪拡大の可能性とテロリズム－テロリズムの追加に関するオランダ改正案に注目して－」『国際関係研究』第36巻１号，2017年「海洋航行不法行為防止（SUA）条約における裁判管轄権規定－被強要国の管轄権をめぐる議論を中心に－」『危機管理学研究』創刊号，2018年「テロリズム防止関連諸条約の管轄権規定形成における「法の一般原則」の機能」『危機管理学研究』第２号　ほか

専門分野

国際法

担当科目

国際法特殊研究，特別研究指導

加藤 孝治 教授
Kato, Koji

主な学歴

1988年　京都大学経済学部経済学科卒業（経済学）
2009年　日本大学大学院総合社会情報研究科国際情報専攻博士前期課程修了　修士（国際情報）
2012年　日本大学大学院総合社会情報研究科総合社会情報専攻博士後期課程修了　博士（総合社会文化）

主な職歴

1988年　株式会社日本興業銀行（現みずほフィナンシャルグループ）入社（2015年３月まで）
1995年　株式会社日本興業銀行　産業調査部（小売業界　調査担当）（2000年11月まで）
2000年　株式会社日本興業銀行　営業第八部（小売大企業営業担当（2007年10月まで）
2007年　株式会社みずほコーポレート銀行　産業調査部次長（小売・食品業界など　調査担当）（2013年３月まで）
2010年　株式会社みずほ銀行産業調査部次長（自動車部品，電子部品業界及び再生エネルギーなど調査担当）
2013年　三井物産株式会社食品事業本部に出向（2015年３月まで）
2015年　目白大学経営学部経営学科　教授（2019年３月まで）
2019年　日本大学大学院総合社会情報研究科　教授

著書

2016年『日本のファミリービジネス』中央経済社（共著），2015年『Next Marketを見据えた食品企業のグローバル戦略』ぎょうせい（共著），2015年『ようこそ小売業の世界に－先人に学ぶ商いのこころ－』商業界（共著），2012年『食品企業飛躍の鍵―グローバル化への挑戦―』ぎょうせい（共著），2010年『食品企業のグローバル戦略―成長するアジアを拓く―』ぎょうせい（共著）

学術論文

2018年「小売チェーンによる物流コスト削減の取り組みに係る一考察～トライアル社に見る調達物流改善の実態～」日本物流学会学会誌　No.26，2018年「総合商社に期待される機能変化に関する考察―食品分野における事業展開の変化―」目白大学経営学研究，第15号，2018年“Japanese corporate governance structure review and ‘the logic of lé”（共著）International Journal of Business and Globalisation, Vol.20 No.3, pp354-370，2016年「地域に根付いた経営資源の活用による地方創生モデルに関する考察－再春館製薬と霧島酒造が手掛ける地域活性化事例―」共著，日本物流学会学会誌No.24，87-94頁，2013年『タイの洪水後に生じた自動車業界のサプライチェーンの変化について』共著，日本物流学会学会誌No.21，127～134頁，2012年『東日本大震災によって顕在化した自動車業界が直面する課題』共著，日本物流学会学会誌No.20，45～52頁，2012年『わが国の小売ビジネスにおける持続的競争優位性の研究』博士論文，日本大学大学院

専門分野

経営組織論・経営戦略論・流通論・金融論・ファミリービジネス研究

担当科目

流通経営論特殊研究，特別研究指導

川中 敬一 教授
Kawanaka, Keiichi

主な学歴

1982年　防衛大学校理工学専攻機械工学科卒業
2003年　杏林大学大学院国際協力研究科開発問題専攻　博士前期課程修了（学術）
2006年　杏林大学大学院国際協力研究科開発問題専攻　博士後期課程修了（学術）

主な職歴

1982年３月　総理府（当時）
2007年３月　防衛大学校防衛学教育学群准教授
2013年４月　東京財団ユーラシア情報ネットワーク・チーム上席アソシエイト
2014年４月　日本大学総合科学研究所教授
2016年４月　日本大学危機管理学部危機管理学科教授
日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

「米海軍主催演習に中国軍初参加「日米は利害一致」の幻想に衝撃」『週刊エコノミスト』８月26日号2014年８月，「権力崩壊の前兆は知識人の絶望「機会の格差」が現在の火種」『週刊エコノミスト』４月29日号2014年４月，『中国の海洋進出』成山堂書店（共著）2013年４月，「海軍拡充の根底にある建国理念と近海防御戦略」『週刊エコノミスト』３月26日号2013年３月，「歴史的視点から導く中国軍事戦略の方向性」『防衛大学校特別研究報告』第42号2011年12月，『中国の建国理念と国家・軍事戦略』防衛大学校2009年10月，『「戦略」の強化書』芙蓉書房出版（共著）2009年４月，『「孫子兵法」教本』防衛大学校（翻訳）2008年６月，「「和諧世界」の歴史的連続性に関する考察」『JANAFA会報誌』第35号2009年１月

学術論文

「中国の海洋進出と台湾関係」『警察政策』第15巻2013年３月，「中国の対外武力行使発動における目的と特徴」杏林大学2006年９月

専門分野

軍事戦略思想（特に，孫子，毛沢東及びマハン），当今中国の軍事戦略，米中関係と世界，中国の国防・治安法制度

担当科目

危機管理論特殊研究，特別研究指導

陸 亦群 教授
Riku, Yugun

主な学歴

1996年３月　日本大学経済学部経済学科　卒業
1998年３月　日本大学大学院経済学研究科博士前期課程　修了
2001年３月　日本大学大学院経済学研究科博士後期課程　修了
博士（経済学）　取得

主な職歴

2003年５月　日本大学通信教育部専任講師
2006年10月　日本大学通信教育部准教授
2011年10月　日本大学通信教育部教授
2012年４月　日本大学大学院総合社会情報研究科教授
2018年４月　日本大学経済学部教授

著書

Tsuji, Tadahiro, Yiliang Wu and Yugun Riku（ed.）（2015）, Rebirth of the Silk Road and a New Era for Eurasia, Yachiyo Shuppan.
『産業集積と新しい国際分業－グローバル化が進む中国経済の新たな分析視点－』文眞堂（共著）2007年３月

学術論文

「国際分業における製品アーキテクチャおよび企業戦略に関する一考察」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第29号　2016年３月，「グローバル化時代の企業戦略展開と政府の役割」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第28号 2015年３月，「新興国の都市化とダイナミックキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第27号 2014年３月，「グローバル・マーケティング戦略と新興国のキャッチアップ」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第26号 2013年３月，「キャッチアップにおける政府の役割と東アジア新興諸国の経験」『研究紀要』日本大学通信教育研究所 第25号 2012年３月，「東アジア新興国の経験の中央アジア経済発展への適用に関する一考察」『日本貿易学会年報』日本貿易学会 第48号（共著）2011年３月

専門分野

国際分業と経済開発，産業集積と地域経済，経済開発戦略

担当科目

国際経済政策論特殊研究，特別研究指導

瀧川 修吾 准教授
Takigawa, Shugo

主な学歴

1997年　日本大学法学部政治経済学科卒業　学士（法学）
1999年　日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士前期課程修了修士（政治学）
2009年　日本大学大学院法学研究科政治学専攻博士後期課程修了博士（政治学）

主な職歴

2004年　日本大学通信教育部インストラクター
2005年　日本福祉教育専門学校非常勤講師（2009年３月まで）
2006年　洗足学園短期大学非常勤講師（2009年３月まで）
2007年　日本大学文理学部非常勤講師（2014年３月まで）
2011年　日本橋学館大学リベラルアーツ学部専任講師（2013年３月まで）
2013年　日本橋学館大学リベラルアーツ学部准教授（2015年３月まで）
2015年　開智国際大学リベラルアーツ学部准教授（校名変更による：2016年３月まで）
2016年　日本大学危機管理学部准教授
2017年　日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2005年『政治と行政の理論と実際』思文閣出版（共著），2006年『近代日本政治史Ⅱ 大正・昭和』南窓社（共著），2007年『増訂新版 近代日本政治史Ⅰ 幕末・明治』南窓社（共著），2007年『臨床に必要な法学』弘文堂（共著），2008年『小泉劇場千秋楽－発言力４－』三和書籍（共著），2013年『リーガル・マキシマム－現代に生きる法の名言・格言－』三修社（共著），2014年『征韓論の登場』櫻門書房，2015年『法学入門』光生館（共著），2018年『外国人の受入れと日本社会』日本加除出版（共著）ほか

学術論文

2003年「山田方谷と征韓論」（日本大学大学院『法学研究年報』第32号），2004年「征韓論と勝海舟」（日本大学大学院『法学研究年報』第33号），2005年「ロシアによる対馬占拠事件の考察」（日本大学大学院『法学研究年報』第34号），2006年「対馬藩の征韓論に関する比較考察－文久三年・元治元年・慶応四年の建白書を中心に－」（日本大学大学院『法学研究年報』第35号），2006年「幕末の排外・優越主義的思考様式についての一考察」（日本法政学会『法政論叢』第42巻第２号），2008年「征韓論の論理的構造とその起原に関する研究」（学位申請論文），2009年「橋本左内の対外観とアジア雄飛論－日露同盟論を中心に－」（日本大学『政経研究』第46巻第２号），2010年「2009年学界展望／政治思想（日本・アジア）」（日本政治学会『年報政治学2010-Ⅱ』），2012年「『江湖（ごうこ）新聞』と福地櫻痴」（日本橋学館大学『紀要』第11号），2013年「2012年書評／政治史（日本・アジア）」（日本政治学会『年報政治学2013-Ⅰ』），2015年「2014年学界展望／政治史（日本）」（日本政治学会『年報政治学2015-Ⅱ』），2016年「学術出版にまつわる諸作業の電子化に潜む陥穽－研究教育者の視点から」（開智国際大学『紀要』第15号）ほか

専門分野

日本政治史，日本政治思想史

担当科目

日本政治史論特殊研究，特別研究指導

島田 めぐみ 教授
Shimada, Megumi

主な学歴

1985年3月　成蹊大学文学部文化学科卒業
1995年3月　東京学芸大学大学院教育学研究科国語教育専攻日本語教育講座修了（教育学修士）
2006年9月　名古屋大学大学院教育発達科学研究科心理社会行動科学講座博士課程修了（心理学博士）

主な職歴

1995年4月　日本貿易振興会国際交流部　ビジネス日本語担当アドバイザー
1998年9月　東京学芸大学留学生センター　専任講師
2002年8月　東京学芸大学留学生センター　助教授
2007年4月　東京学芸大学留学生センター　准教授
2010年4月　東京学芸大学留学生センター　教授
2017年4月　日本大学大学院総合社会情報研究科　教授

著書

2008年　『日本語教師のためのExcelでできるテスト分析入門』スリーエーネットワーク（共著），2011年　「第５章どう評価するか」遠藤織枝（編）『日本語教育を学ぶ―その歴史から現場まで―【第二版】』三修社（分担執筆），2013年　「ハワイ日系人の日本語」『オセアニアの言語的世界』渓水社（分担執筆），2015年　「第９章　日本語語彙認知診断テスト」『日本語教育のための言語テストガイドブック』くろしお出版（分担執筆），2017年　『日本語教育のためのはじめての統計分析』ひつじ書房（共著），2019年「第２章日本語文法認知診断Webテスト」『ICT×日本語教育』ひつじ書房（分担執筆），他

学術論文

1998年　「外国人ビジネス関係者の日本語使用―実態と企業からの要望―」（共著）『世界の日本語教育』８号，1999年　「アジア５都市の日系企業におけるビジネス日本語のニーズ」（共著）『日本語教育』103号，2002年　「日本語ビジネス文書の評価―会社員と日本語教師への調査から―」（単著）『多摩留学生センター教育研究論集』３，2003年　「日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」（単著）『日本語教育』119号，2006年　「日本語聴解テストにおいて難易度に影響を与える要因」（単著）『日本語教育』129号，2006年　「日本語Can-do-statementsを利用した言語行動記述の試み―日本語能力試験受験者を対象として―」（共著）『世界の日本語教育』16号，2009年　「中国語母語話者を対象とした日本語聴解テストにおける選択肢提示形式の影響」（共著）『世界の日本語教育』19号，2009年　「Can-do statementsを利用した教育機関相互の日本語科目の対応づけ」（共著）『日本語教育』141号，2012年「ハワイ日系二世の言語切替えに関するケーススタディ」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第15号，2013年　「教育機関におけるCan-do statements自己評価の応用」（単著）『言語教育評価研究』第３号，2015年　「日本語学習支援のための認知診断テストの開発」（共著）『第二言語としての日本語の習得研究』第18号，2016年　「日本語文法認知診断テストの開発に関わる内容分析」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号，2017年　「ハワイの共通語となった日本語語彙」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第20号，2017年　「高度外国人材に求められるビジネス日本語フレームワークの構築―直観的手法を中心に―」（共著）『琉球大学国際教育センター紀要』創刊号，2018年　「ハワイにおける借用語habut-の使用実態について－ハッシュタグ検索を用いて－」（単著）『学芸国語国文学』第50号，2018年　「高度外国人材に求められる「仲介」スキルとはータイで活躍する高度外国人材に対する実態調査を中心に―」（共著）『琉球大学国際教育センター紀要』２号，2019年「日本語聴解テスト予備試験結果の分析--認知診断テストの開発を目指して--」『東アジア日本語教育・日本文化研究』第22号，他

専門分野

日本語教育学，言語テスト，言語接触，ビジネス・コミュニケーション

担当科目

第二言語習得論特殊研究，特別研究指導

清水 享 教授
Shimizu, Toru

主な学歴

1990年３月　日本大学文理学部史学科卒業
1995年１月　中国中央民族大学普通進修生修了
1997年３月　日本大学大学院博士前期課程史学専攻修了（文学修士）
2001年３月　日本大学大学院博士後期課程東洋史学専攻満期修了退学
2001年３月　中国中央民族大学高級進修生修了
2014年３月　博士（文学）学位取得

主な職歴

1991年９月　東京都葛飾区遺跡調査会調査員
2001年４月　日本大学文理学部人文科学研究所研究員
2002年４月　日本大学国際関係学部・短期大学部（三島校舎）非常勤講師
2003年４月　日本大学文理学部非常勤講師
2003年４月　日本大学通信教育部非常勤講師
2003年４月　人間文化研究機構総合地球環境学研究所共同研究員
2004年４月　日本大学理工学部非常勤講師
2006年４月　実践女子大学人間社会学部非常勤講師
2006年４月　法政大学キャリアデザイン学部兼任講師
2007年４月　明治大学商学部兼任講師
2007年11月　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員
2008年４月　法政大学国際文化学部兼任講師
2008年10月　東京学芸大学人文社会学系兼任講師
2008年10月　人間文化研究機構国立民族学博物館共同研究員
2010年４月　日本大学商学部非常勤講師
2012年４月　日本大学薬学部非常勤講師
2013年４月　明治大学経営学部兼任講師
2014年４月　東京農業大学農学部非常勤講師
2016年４月　日本大学スポーツ科学部教授
2017年４月　日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

『講座ファーストピープルズ －世界先住民の現在－ 第一巻　東アジア』綾部恒雄監修末成道男・曽士才編2005年１月　明石書店（共著），『図録メコンの世界 －歴史と生態－』秋道智弥編2007年３月　弘文堂（共著），『中国雲南少数民族生態関連碑文集』唐立編　2008年４月　総合地球環境学研究所（共著），An Illustrated Eco-History of the Mekong Basin，Akimiti,Tomoya(ed.)，White Lotus, Jul，2008（共著），『雲南西部少数民族古文書碑文集』唐立編　2011年３月　東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著)，『台湾中央研究院傅斯年図書館蔵彝文(儸儸文)文書解題』清水享編　2012年３月東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所(共著)，他

学術論文

「涼山彝族の葬・墓制　－土語地域間の差異についての一考察－」『西南中国納西族・彝族の民俗文化－民俗宗教の比較研究－』（p368-387）佐野賢治編，1999年２月　勉誠出版　（単著），「従墓碑資料来看涼山彝族土司阿都氏初探」『彝族古文献與伝統医薬開発国際学術研討会論文集』（p559-577），彝族古文献與伝統医薬開発国際学術研討会組委編2002年７月　雲南民族出版社（単著），「碑文が語る生態史-地域住民からみた生態環境の変化」『モンスーンアジアの生態史 第２巻 地域の生態史』（p35-53）　秋道智弥編　2008年４月　弘文堂　（共著），「関與雲南省南部生態環境碑刻」『明清以来雲貴高原的環境與社会』（154-182p）楊偉兵編　2010年６月　上海東方出版中心（単著），「近代から現代における彝族社会の変化と文化変容についての総合研究　－涼山彝族を中心として－」　2014年３月　日本大学博士学位論文，「町に出るピモ　－県城におけるピモ（彝族祭司）の活動－」『中国の社会変化と再構築　グローカライゼーションの視点から』韓敏編　2015年３月　風響社　（単著），他

専門分野

西南中国民族研究

担当科目

東アジア文化特殊研究，特別研究指導

保坂 敏子 教授
Hosaka, Toshiko

主な学歴

1982年　西南学院大学文学部外国語学科フランス語専攻卒業
1988年　国立国語研究所日本語教育長期専門研修修了
1991年　国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程（教育方法学専攻視聴覚教育専修）修了（教育学修士）

主な職歴

1988年　文化外国語専門学校日本語科専任インストラクター
1989年　産能短期大学留学生別科非常勤講師
1991年　国際基督教大学教育研究所助手
1991年　慶應義塾大学日本語・日本文化教育センター非常勤講師
1992年　早稲田大学国際部（現日本語教育研究センター）非常勤講師
1997年　早稲田大学国際教育センター（現日本語教育研究センター）非常勤講師
2000年　フェリス女学院大学文学部非常勤講師
2004年　日本大学総合科学研究所助教授（研究所）
2006年　日本大学商学部　助教授（研究所）
2007年　日本大学総合科学研究所准教授（研究所）
2011年　日本大学大学院総合社会情報研究科兼担教員　准教授（研究所）
2014年　日本大学大学院総合社会情報研究科教授

著書

2005年　『新版　日本語教育辞典』大修館書店（共著），2008年　『海外の非母語話者日本語教師に特化した教育支援環境の調査と研究』ＷＩＴ出版（共著），2010年　『多言語による e-learning日本語学習メディアを考える報告書』日本大学通信教育研究所（共著），2014年　『映像作品を利用した日本語教育の体系化と授業デザインの研究』エーエスエス（共著），ほか

学術論文

1991年　「外国語（日本語）の読解におけるメタ認知的技法の教授に関する実証的研究－アンダーラインの場合－」（単著）『教育研究』34，1998年　「上級口頭表現能力養成方法の多様性　－コース設計基準を求めて－」（単著）『日本語と日本語教育』26，2004年　「学習者同士のインターアクションにおける学びの実態」（共著）『小出記念日本語教育研究会論集』12，2008年　「海外の非母語話者日本語教師の教材使用状況に関する調査－非母語話者教師が求めるもの－」（共著）　『小出記念日本語教育研究会論集』16，2010年　「対話重視の映画・ドラマを使った日本語教育－多言語多文化学習者は何を学ぶか－」（単著）『2010世界日本語教育大会（2010ICJLE）論文集』，2012年　「多言語によるe-Learning日本語学習メディアに関する共同研究－専門科目を核としたe-Learning教材の試行と評価－」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第15号，2013年　「日本語教育におけるCEFRの文脈化－短期交換留学プログラムの日本語参照枠として－』（単著）『複言語教育研究』第１号，NU-CEFR研究会，2013年　「映像作品を利用した日本語教育の体系化に向けて－海外における利用実態と教師の意識から－」（共著）『2012年度徳島大学国際センター紀要・年報』，2016年　「字幕翻訳で失われる要素　－言語教育との関わりを考える－」（単著）『日本語と日本語教育』44，2016年「映画に埋め込まれた文化に対する認識－異なる文化背景の人々は何を「日本文化」と捉えるか－」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第19号，2016年　「文化翻訳が拓く異文化間コミュニケーション －文学、メディア・アート、パフォーマンスにおける事例研究－」『日本大学大学院総合社会情報研究科紀要』No.18，2018年　「映像作品における翻訳しにくい日本語－日本語非母語話者の認識に関する調査から－」（単著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第21号，2018年　「日本語教員を対象とした著作権セミナーの試行と評価」（共著）『日本教育工学会論文誌』42（suppl.），2019年　「日本映画の字幕における同化翻訳－『君の名は。』と『東京物語』の比較分析から－」（共著）『東アジア日本語教育・日本文化研究』第22号ほか

専門分野

日本語教育学，言語文化教育，教育工学，視聴覚教育

担当科目

言語教育学特殊研究，特別研究指導

秋草 俊一郎 准教授
Akikusa, Shun'ichiro

主な学歴

2004年　東京大学文学部西洋近代語西洋近代語学科卒業
2009年　東京大学大学院人文社会系研究科修了博士（文学）

主な職歴

2006年　日本学術振興会特別研究員
2009年　ウィスコンシン大学マディソン校客員研究員（日本学術振興会優秀若手海外派遣事業による派遣）
2012年　ハーヴァード大学客員研究員（日本学術振興会海外特別研究員事業による派遣）
2014年　東京大学教養学部専任講師
2016年　日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2011年『ナボコフ　訳すのは「私」――自己翻訳がひらくテクスト』（東京大学出版会），2018年『アメリカのナボコフ――塗りかえられた自画像』（慶應義塾大学出版会）

学術論文

2012年「日本文学のなかのナボコフ――誤解と誤訳の伝統」『文学』第13巻第４号，2012年「自己翻訳者の不可視性――その多様な問題」『通訳翻訳研究』12号，2013年「「レキシントンの幽霊」異聞」『早稲田文学』６号，2014年「カノンをはかる――「世界文学全集」に見る各国別文学の受容の移り変わり」『世界文学』120号，2015年「カノンを輸入する――『ハーヴァード・クラシックス』と円本全集」『比較文学』57号

専門分野

比較文学（日本・英米・ロシアなどふくむ），翻訳研究，ロシア文学，世界文学

担当科目

比較文学特殊研究，翻訳論特殊研究，特別研究指導

泉 龍太郎 教授
Izumi, Ryutaro

主な学歴

1985年　九州大学医学部卒業
1992年　九州大学大学院医学系研究科博士課程内科学専攻修了医学博士

主な職歴

1985年　九州大学医学部附属病院　内科研修医
1992年　創価大学　生命科学研究所　助手
1993年　㈶宇宙環境利用推進センター　研究員
1998年　宇宙開発事業団　宇宙環境利用研究センター　研究員
2003年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　客員教授（～2009年）
2003年　宇宙航空研究開発機構　有人宇宙技術部　（副）主任研究員
2009年　日本原子力研究開発機構　大洗研究開発センター専属産業医
2012年　宇宙航空研究開発機構　招聘研究員
2013年　日本大学大学院総合社会情報研究科　教授

著書

1998年『宇宙医学・生理学』社会保険出版社（共著），2000年『21世紀に期待される技術～その将来展望　第３巻　医療・健康，高齢化社会への対応技術』日本ビジネスレポート社（単著），2006年『宇宙環境利用と人類の将来（Ⅰ）－いきものの星・地球－』宇宙航空研究開発機構（共著），ほか

学術論文

2004年『Gの感覚』体育の科学, vol.54, 546（単著），2004年『STS-107ラットサンプルシェア研究』日本マイクログラビティ応用学会誌, vol.21, 26（共著），2009年"Development of basic technologies for drop-tower experiments on vertebrates" Biol. Sci. Space.vol.23, 85（共著），2009年『日本における宇宙医学研究の現状とJAXA宇宙医学生物学研究室の取り組み』日本マイクログラビティ応用学会誌, vol.26, 269（共著），ほか

専門分野

健康科学，内科・産業医学，宇宙航空環境医学，生命科学，人間工学

担当科目

健康科学特殊研究，特別研究指導

田中 堅一郎 教授
Tanaka, Ken'ichiro

主な学歴

1985年　日本大学文理学部心理学科卒業
1987年　日本大学大学院文学研究科　博士前期課程心理学専攻修了
1992年　日本大学大学院文学研究科　博士後期課程心理学専攻修了，博士（心理学）取得

主な職歴

1989年　日本学術振興会特別研究員（DC）
1992年　東北女子短期大学専任講師
1994年　常葉学園浜松大学国際経済学部　専任講師
1998年　浜松大学国際経済学部助教授
1999年　広島県立大学経営学部経営学科　助教授
2003年　日本大学大学院　総合社会情報研究科助教授
2007年　日本大学大学院　総合社会情報研究科准教授
2009年　日本大学大学院　総合社会情報研究科教授

著書

1996年　『報酬分配における公正さ－社会心理学的考察－』風間書房（単著），1998年　『社会的公正の心理学　心理学の視点から見た「フェア」と「アンフェア」』ナカニシヤ出版（編著），2004年　『従業員が自発的に働く職場をめざすために』ナカニシヤ出版（単著），2007年　『臨床組織心理学入門　組織と臨床への架け橋』ナカニシヤ出版（編著），2008年　『荒廃する職場/反逆する従業員　職場における従業員の反社会的行動についての心理学的研究』ナカニシヤ出版，2019年　『産業・組織心理学エッセンシャルズ　第４版』ナカニシヤ出版（編著）

学術論文

1999年　“Judgment of fairness by just world believers.” Journal of Social Psychology Vol.139,No.5，2000年　「日本語版セクシュアル・ハラスメント可能性尺度についての検討－セクシュアル・ハラスメントに関する心理学的研究－」『社会心理学研究』16巻１号，2002年　「日本版組織市民行動尺度の研究」『産業・組織心理学研究』15巻２号，2005年　「日本版組織機能阻害行動の測定尺度の開発」『経営行動科学』18巻１号，2007年　「職場の迫害が従業員の職務行動および心理的・身体的側面に及ぼす影響」『産業・組織心理学研究』21巻２号，2012年　「ジェンダー･ハラスメント測定尺度の等価性の検討―共分散構造分析による平均構造・多母集団同時分析を用いた検討―」『応用心理学研究』38巻２号，2013年　“Organizational citizenship behavior in contemporary workplaces in Japan.” Japan Labor Review, Vol.10，No.3，2016年　“Impact of gender harassment on job-related behaviors in the Japanese workplace.”『経営行動科学』28巻３号

専門分野

産業・組織心理学，社会心理学

担当科目

産業・組織心理学特殊研究，特別研究指導

柴山 英樹 准教授
Shibayama, Hideki

主な学歴

2000年３月　日本大学文理学部教育学科卒業
2002年３月　日本大学大学院文学研究科博士前期課程教育学専攻修了
2005年３月　日本大学大学院文学研究科博士後期課程教育学専攻満期退学
2009年３月　博士（教育学）学位取得（日本大学）

主な職歴

2006年４月　聖徳大学人文学部専任講師
2011年４月　聖徳大学児童学部准教授
2014年４月　日本大学理工学部准教授
2016年４月　日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2009年（共著）『教育人間学の展開』北樹出版，2009年（共著）『現代学校教育論』日本文化科学社，2011年（単著）『シュタイナーの教育思想―その人間観と芸術論―』勁草書房，2012年（共著）『博物館教育論―新しい博物館教育を描きだす―』ぎょうせい，2013年（共著）『言語と教育をめぐる思想史』勁草書房，2016年（共著）『現代教職論』弘文堂，2016年（共著）『道徳教育の理論と方法』弘文堂，2017年（共著）『哲学する道徳―現実社会を捉え直す授業づくりの新提案』東海大学出版部，2018年（共著）『＜新訂＞教職入門―未来の教師に向けて』萌文書林，2019年（共編著）『言葉とアートをつなぐ教育思想』晃洋書房

学術論文

2005年（単著）「ルドルフ・シュタイナーにおける『身体』・『リズム』・『教育』の関係をめぐって－エミール・ジャック＝ダルクローズとの比較考察を通じて－」教育哲学会『教育哲学研究』第91号，2005年（単著）「シュタイナーの色彩論に関する思想史的考察」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第14号，2008年（単著）「シュタイナーの人間観に関する考察―19世紀自然科学との対峙という視角から」臨床教育人間学会『臨床教育人間学３　生きること』，2014年（単著）「中学校の道徳教育における教材研究と指導方法に関する一考察―小学校読み物資料を中学校で読み直すための試案―」日本大学教育学会『教育学雑誌』第50号，2016年（単著）「シュタイナーの系統発生史と「教育」の関係―「個体」と「想像力」のあり方に着目して」教育思想史学会『近代教育フォーラム』第25号

専門分野

教育思想史，教育哲学，教育メディア論

担当科目

教育認識論特殊研究，特別研究指導

種ケ嶋 尚志 准教授
Tanegashima, Hisashi

主な学歴

1999年　日本大学文理学部　卒業
2007年　聖徳大学大学院臨床心理学研究科　博士後期課程満期単位取得退学
2007年　博士（心理学）　学位授与（聖徳大学）

主な職歴

1999年　日本大学文理学部体育学研究室　副手
2002年　慶応義塾大学体育研究所　非常勤講師
2004年　千葉県立柏児童相談所　心理判定員（嘱託）
2005年　医療法人悠希会　心療内科　心理カウンセラー(非常勤)
2007年　栃木県宇都宮市教育委員会スクールカウンセラー
2008年　東京都公立学校スクールカウンセラー
2008年　東洋大学文学部　非常勤講師
2009年　埼玉県公立学校スクールカウンセラー
2011年　大東文化大学スポーツ・健康科学部　特任講師
2014年　日本大学工学部総合教育　准教授
2016年　日本大学スポーツ科学部　准教授
2017年　日本大学大学院総合社会情報研究科准教授

著書

2012年１月，『こころへのアプローチ』田研出版株式会社（共著）
2015年12月，『クローズアップ「健康」』福村出版（共著）

学術論文

1　2015年９月，「運動部経験者のライフスキルとメンタルヘルス関連要因の検討」，日本大学工学部紀要57
2　2013年９月，「男性中高年ボディイメージに関する研究」，日本大学工学部紀要55
3　2013年３月，「女性中高年ボディイメージの視覚的評価からみた心理的ストレスと生活習慣に関する研究」，大東文化大学紀要51
4　2012年２月，「青年期後期における完全主義がアイデンティティ形成に与える影響」，桜文論叢82
5　2010年３月，「競技不安を訴えて来談したスポーツ選手との認知療法によるカウンセリング」，スポーツ心理学研究37
6　2007年９月，「スポーツ選手の競技不適応に関する臨床心理学的研究」，聖徳大学　博士論文
7　2007年９月，「スポーツ選手の完全主義と競技不適応についての検討」，ヒューマン・ケア研究８
8　2007年８月，「スポーツ競技者がもつ完全主義とソーシャルスキルがバーンアウトに及ぼす影響」，心理臨床学研究25
9　2006年３月，「スポーツ選手のネガティブな信念と競技不安およびバーンアウトとの関係について」，応用心理学研究31
10　2006年３月，「テニス選手の不適応と完全主義及びソーシャルスキルとの関連」，明星大学健康・スポーツ科学研究紀要１
11　2005年12月，「陸上競技選手のバーンアウトと完全主義及びソーシャルスキルとの関連」，陸上競技研究63
12　2005年３月，「テニス選手における競技不安とIrrational beliefとの関係」，テニスの科学13
13　2002年３月，「テニスのサービスにおける主観的努力度がパフォーマンスに与える影響」スポーツ方法学研究15

専門分野

スポーツ心理学，臨床心理学，教育心理学，応用健康科学

担当科目

健康科学特殊研究，特別研究指導

岡山 敬二 准教授
Okayama, Keiji

主な学歴

1994年　北海道大学文学部卒業
2004年　中央大学大学院文学研究科博士後期課程哲学専攻修了
哲学博士

主な職歴

2004年　中央大学文学部　非常勤講師（～2012年）
2005年　大妻女子大学社会情報学科　非常勤講師（～2006年）
2009年　中央大学理工学部　非常勤講師（～2013年）
2012年　日本大学法学部　助教
2015年　日本大学法学部　准教授
2017年　日本大学大学院総合社会情報研究科　准教授

著書

2014年『人間が人間でなくなるとき――フッサールの影を追え、とメルロ=ポンティは言った』亜紀書房（単著），2008年『フッサール――傍観者の十字路』白水社（単著），ほか

学術論文

2019年「人間への問いと思索の祝祭　――ハイデガー『芸術作品の根源』の根源をさぐって――」『桜門論叢』第99巻，日本大学法学部（単著），2018年「「もっとも不気味なもの」としての人間に向けて　――存在と無のはざまで――」『桜門論叢』第97巻，日本大学法学部（単著），2018年「技術と存在――ハイデガー「技術への問い」を問う――」『桜文論叢』第96巻，日本大学法学部（単著），2014年「「肉」から他者へ――メルロ=ポンティからフッサールへ」『桜文論叢』第87巻，日本大学法学部（単著），2013年「心身問題を蒸し返す」『人文研紀要』第77巻，中央大学人文科学研究所（単著），2013年「内在と原初の哲学――他者不在の背理について（フッサールのばあい）――」『桜文論叢』第85巻，日本大学法学部（単著），ほか

専門分野

現象学を中心とする現代哲学。おもに存在論、他者論や心身問題。

担当科目

近現代哲学特殊研究